



ネパール・ミカの会



「天上天下・・・」

NPO法人ネパール・ミカの会
理事長 齋藤 謹也



ヒマラヤの南のふもと、ローヒニー河のほとりに、釈迦族の都であるカピラヴァストゥがあった。その王である浄飯王は、そこに城を築き繁栄したという。

妃、摩耶(まや)夫人は同じ釈迦族の一族で、ユーリヤ族とよばれるデーヴァタハ城の姫で、王のいとこにあっていた。結婚の後、ながくに恵まれず、二十幾年の歳月の後、ある夜白象が右わきから胎内に入る夢をみて懐妊した。王の一族をはじめ国民ひとしく指折り数えて王子の出生をまちわびたが、臨月近く、妃は国の習慣に従って生家に帰ろうとして、その途中ルンビ二園に休息した。

折りから春の陽はうららかに、アショーカの花はうるわしく咲きおっていた。妃は右手をあげてその枝を手折(たお)ろうとし、そのせつなに王子を生んだ。天地は喜びの声をあげて妃と子を祝福した。ときに四月八日であった。父浄飯王の喜びはたとえようがなく、一切の願いが成就(じょうじゅ)したという意味のシッダルダ(悉達多)という名を王子に与えた。

以上が「佛教聖典」(佛教伝道協会発行)の冒頭第一章第一節にてでてる釈尊の偉大な生涯のはじめの文である。

「ネパール・ミカの会」にたずさわって十七年余。おかげで、何度かカピラ城やローヒ二河を拝観しただけでなく、摩耶夫人の国デーヴァダハに残る舍利塔に参拝し、二十回程ルンビ二園にまいることができた。そして、ルンビ二周辺の小学校等の子ども達と「校舎建設」や「教育支援」を通して、深いエニシ(縁)で結ばれることとなった。

あらためて考えると、まさにであいの不思議といい仏縁の深きこととなっていることは、これ以上の喜びはないように思われる。かろうじて、私が僧侶のはしくれにいられることは、このルンビニやカピラ城とつながらせていただいていることによるように思われる。会員各位にも、当会に入られた動機は実にさまざまであろうし、また、仏教徒としての自覚はない方も多いと思われる。でも東洋の偉大な人ゴータマ・シッダルダと結びついていることに、もっと胸はって喜びを語っていいのではないかと思います。

ちなみに、私の寺院は曹洞宗に属しますが、本山は永平寺。その永平寺は寛元二年(一二四四年)九月一日法堂が竣工し、その二年後の開祖道元禅師の上堂の示衆に、「天は仏の智慧であふれて高く清く澄みわたり、地は仏の智慧がしみとおって厚く豊かにうるおい、人は、仏の智慧に導かれて心安らかである。なぜそうなのかといえば、釈尊がご誕生なされ、一手は天を指し、一手は地を指され、廻り歩くこと七歩なされて、『天上天下、唯我独尊』と仰せられたからである。

釈尊はそのようにおおせられた。そこで、私もいおう。修行者諸君、諸君は、これから私のいうその真の意義を証明してみせよ。

「平成26年度定期総会開催される」

副理事長 大谷 安宏

5月17日に平成25年度定期総会は町田市民ホールにて、来賓に日本ネパール協会小嶋 光昭代表及び国際ソロプチミスト町田一さつき 木口 容子会長をお迎えし、会員69名(含委任状)の出席をもって開会されました。

齋藤理事長の挨拶は17回目の定期総会を迎える喜びとネパールの子供たちのひとみを思い返すことが活動に繋がっており、着実に支援の成果に繋がっている。

今後現地の人々との“ひとみとひとみ、目と目、正直に向き合う”活動を継続してゆく為に会員はじめ関係者への協力をお願いされました。

続いて平成25年度事業報告・決算報告及び平成26年度事業計画案・収支予算案の審議が行われ、原案通りに満場一致で可決されました。

また、シッダルタ募金の主要協力者19名の代表者に感謝状が授与されました。

ラマ理事の現地報告では政治の不安定が続いており、校舎建設資材の調達困難、海外出稼ぎ者の増加、10+2校への進学者の減少、相変わらずの電力、水道などインフラの課題があり一日も早い政治の安定が望まれている。今後もミカの会の力を現地の教育支援活動に継続して欲しいとの要望が述べられました。

以上、総会は無事終了し、来賓を交え懇親会が賑やかに執り行われ、創立20年に向け「ゆっくりと ささやかに 心を込めて 手から手へ」をモットーに現地の子供たちの輝くひとみと笑顔に更なる教育支援活動を継続することを誓い合いました。



「ジギャンクマルタバ氏講演会」

“ネパールの今 ～政治・経済からボランティア活動まで～”

西澤 忠

念願の講演会が実現した。去る7月19日(土)“国際ソロプチミスト町田-さつき加藤会長”及び会員20数名の参加を得て講演会が開かれた。移動例会に引き続き、齋藤理事長挨拶、大谷副理事長による講師紹介があった後、ジギャンクマルタバ氏から自己紹介及び同行のサンディブアディカリ氏の紹介があり、ネパールの情勢について豊富なデータを使って15:10から一時間半に渡りお話があった。

私たちミカの会の活動に影響している憲法制定は少しずつだが進んでいることや、教育制度の改革も1～8年生(初等教育・義務化)、9～12年生(中等教育)とBoardとして進んでいるなどのお話は大いに参考になった。また公立学校の幼稚部から10年生までの一日の時間割をプリント(タパケル村事例)で配布して説明。幼稚部から国語(ネパール語)と同じくらい英語を学んでいることや、6年生から「環境・人口・健康」の科目が組み込まれていることは初めて知ったし、更に先生が不足していて高学年は朝7:00から時差教育(普通10:00～16:00)が行われていること。

また1年生入学は91.2%(2012年)でこれが8年生までの継続者は69.4%と22ポイントも低下してしまうことや学校に行きたくてもいけない子供達が多くいるとの話もあり深く考えさせられた。この数値は平均的であるが果たしてルンビニ地区支援校の実態はどうだろうか?よく把握して今後の活動に結びつけていく必要があると思った。

昨年11月に行われた制憲議会選挙の結果、党派別の獲得議席数やマオイスト惨敗などの理由や国内に仕事がない等で出稼ぎ労働者が多い。また日本への入国者はこの10年間で約10倍(3万人)となっている、留学生も約6千人と中国・韓国・ベトナムについて4位となっている。更にITの普及(携帯電話普及率64.6%/2012年)によるサイバー犯罪も増加している等々資料96枚を使ってジギャンさんは笑顔を絶やさず解りやすく講演された。

引き続き質疑応答があり、専門学校をもっとふやしたら、新憲法は制定できるのか、ブータンとネパールの関係、タライ地区の政治情勢、教育運営委員会と国(総務省)との動きなど多くの質問があり、ジギャンさんから各々丁寧な回答があった。

今回の移動例会、講演会・懇親会は町田駅から徒歩1分と近い“Café & Dining コトシタ”の協力により全て同一の場所で開催出来た事も特色である。17:00から今村副理事長の司会で始まり、新川先生の音頭に合わせ乾杯をして懇親に入った。

ジギャンさん或いはサンディブアディカリさんを囲んで多くの会員がお話出来たようでした。また会員同士の懇親も図れたことと思っています。あっという間に予定の18:30は過ぎ延長して18:45に皆さん心をつにしてミカの会活動をしていこうとの思いで今村副理事長の一本締めがあり閉会となりました。

世界の情勢が急速に変わりつつあるこんにち、国際ボランティアのあるべき姿は?

私たちネパール・ミカの会もネパールの子供達、先生や教育関係者と「共に歩んで行くために、必要なことは何か?」と言った課題について、今後もこのような講演会などを通して学んでいきたいものです。

ジギャンさんにはお休みのところ遠路町田までお出で頂き、貴重なまた示唆に富んだ講演をして下さり大変有難うございました。サンディブさん、ゴビンダさんも参加して頂き有難うございました。今後もネパール・ミカの会にご支援とご厚誼下さいますようお願い申し上げます。

更に国際ソロプチミスト町田-さつき会長加藤様、会員の皆様で協力が有難うございました。



「公益社団法人 日本・ネパール協会総会開催」

副理事長 今村 旭

去る、6月7日(土)平成26年度通常総会が品川区大崎の地域センター集会室において午後2時より行われた。団体加入しているネパール・ミカの会より代表して大谷副理事長と今村の両名が参加しました。以下、総会の内容について報告いたします。

議題

- 1) 平成25年度事業報告
- 2) 平成25年度会計報告
- 3) 平成25年度監査報告
- 4) 平成25年度事業計画案
- 5) 平成26年度収支計算書案
- 6) 新理事の選任
- 7) その他

代表の小嶋光昭氏の開会の挨拶で総会は始まった。担当理事の本会成立の定足数の確認が行われたが、現在の会員数、個人、団体すべてで、268と発表され、委任状も含めて成立となった。ここで、感じたことは、数年前より会員数の減少傾向が止まらないことだ。以前の総会ではもっと大きな会場に多くの会員が集まり活況を呈していた気がする。

ちなみに本年度の新入会員は4名のみとなっている。会としても事業計画の中にネパール語の研修等、会員増につながる事業を試みているが、なかなか思うにまかせない。

地方会員が事務局に会務で連絡しても常駐の職員がいないために、事務上にも支障をきたしているとの指摘もあった。

議事も全議案を慎重に審議して、すべて承認され無事に総会を終わった。明るい話題は、登山家の野口健氏が理事として再び就任した。彼の大きな知名度を活用して新会員を増加させ、日・ネ協会が再び活気ある会となり、私たちの愛するネパールとの交流がさらに発展して実りのある国際交流関係を築きあげられたら、両国の未来に幸せなことだと実感した。

また、新任理事として先般7月19日に移動例会においてネパール情勢についての講演を行っていただいたジギャン・クマル・タバ氏が加わったことで一層、会に親しみを感じた。

今年の秋には日・ネ協会設立50周年記念式典の開催も予定されている。

ネパール・ミカの会もこれらの行事になるべく多くの会員が参加して、おおいに協力関係を発展させたいと思った総会であった。

「第1回 相模台インターナショナルフェスタ」

西澤 忠

「あなたも私もできる“国際支援”」

和田 泰子

日時；2014年5月18日（日）10時～16時
場所；相模原市南区南台公園
主催；相模台インターナショナルフェスタ実行委員会
（相模台自治会連合会が母体）

内容
○パフォーマンス（10団体：幼稚園、小学校、大学、米軍）
演目：和太鼓演奏、カントリーダンス、ロックソーラン、吹奏楽演奏など
○模擬店（15団体：ネパール、ヒマラヤ、インド、ベトナム、中国、カンボジア、東ティモール、メキシコ、ブラジル、南米など）

出店名；ネパール・ミカの会以外の主な出店団体
NESAs、ヒマラヤ交流会、WE21ジャパン相模原、風のクリキンディ
ネパール・ミカの会販売品：ネパール民芸品、衣料品、ショール、財布、バッグ、リサイクル品、LEDソーラランタンなど

所感；相模原市南地域で初めて開かれた国際的フェスタであったが、こぢんまりした公園で動線もよく考えられた舞台・出店配置であったと思う。当日は文字通り五月晴れの天気で、来場者は5,000名を超えたとの発表もあった。
第1回という事もあって実行員会・スタッフ総勢400名によるテント設営・人員配置など準備万端でまた当日の運営も円滑で大成功であったと思う。

ネパール・ミカの会は前日定期総会であったが、来日中のヌルプラマ理事も朝から駆けつけてくれた他6名の方々に参加して頂いた。今回準備の都合で“食バザー”を出店出来なかったのは少し寂しい感じもあったが、リサイクル品などを中心に販売できた。来年はより充実した出店にしたい。
真夏のような暑さの中参加して下さいました皆さんに感謝します。

6月14日、和光大学ポプリホール鶴川で国際交流センター・協力部会主催の講演会が行われた。上記のテーマで、ネパール・ミカの会と国際連誼協会の2つの団体がそれぞれ国際支援のこれまでの活動の様子、成果これからの展望等を語った。

ネパール・ミカの会は初めに20分位の時間をとって、私がネパールという国の地理的特色、民族、宗教等全般についての話しと、教育支援の地域であるカトマンドゥ・タンセン・ルンビニについての環境・人々の生活・学校の様子等スライドを観ていただきながら説明した。加藤さんの協力で作成されたスライドはすばらしく、説明も分かりやすかったといううれしい感想をいただいた。

ネパール及び支援地域の概要を参加された皆さまに知っていただいた後、齋藤理事長がネパール・ミカの会がどのようにしてネパールのこの地域と出合い、その後の教育支援に繋がっていったか、また会の特色、活動の様子等の講演を行った。私たちの会は、たまたまの出会いがあって縁が来るとそこに支援が始まる、ということが特色で、会のモットーである“ゆっくりと ささやかに 心を込めて 手から手へ”のように、継続した支援を続けてきた。

大きな団体へという意図もなくささやかな援助だが、みんな熱心でネパールが好きになり、繰り返し同じ場所を訪ね続けているうちに離れがなくなり17年も続いている。

出会い、繋がり、自然体での支援により先生方、村の人々との信頼関係ができ、また校舎・制服の支援等により、子どもたちの自覚が高まってきている。細々でも、これからも続けていきたいということをもっと具体的に40分に亘って講演された。その後、今村副理事長の司会でネパールの教育制度、義務教育に関する質疑応答があり、閉会となった。ミカの会から17名もの方々が参加され、またこの講演会を聴かれた方がミカの会に入会されたこともうれしいことだった。



「ラマさんと新緑の箱根懇親旅行」

中野 千恵子

ミカの会の恒例となったラマさんと懇親旅行に行ってきました。毎年、総会後にいつも行う事になっているのですが、ゆっくりしようと思いきや近頃の箱根にしました。

5月20日、21日と計画し、町田に9時45分集合、10時町田発のロマンスカーで15名参加し出発です。天気もまずまず、車中では富士山も少しだけ見ることが出来ました。小田原城ではラマさんに武将姿になっていただきました。とても、堂々とした貴族がある立派な侍姿です。

今日の昼御飯は小田原で有名なだる満食堂です。予約が取れないので少し時間を待ちましたが、美味しい昼御飯でした。小田原駅に戻り、バスで小涌園前まで乗車です。夕飯所のよし鳥を確認しながら、今夜の宿、ウェルデの森へ緑のトンネルを抜け歩いて行きました。宿でゆっくりしてから、夕飯です。鳥料理が次々と出てきておなか一杯でした。

次の日は雲ゆきが怪しい中、彫刻の森見学。途中からやはり雨がしとしと。早々にバイキング昼食です。ラマさんにネパールから電話が入り、帰国することになったので、早めに町田駅に戻り解散となりましたが、以外に近い箱根で新緑を楽しむことが出来ました。

☆☆☆事務局便り☆☆☆ 和田

総会から3か月経ち、盛夏となりました。お元気で過ごしてはいかがでしょうか？その間、6月7月と講演会が続きましたが、これからは恒例のイベント・バザー出店が幕開けします。

皆さまの積極的な参加、ご協力よろしくお願いいたします。尚、定例会は予定通り9・10・11月とも第3土曜日1時半よりこもれば堂にて行います。

これからの予定（イベントは10時開催の予定です）

- ★9月7日(日) フェスタ栄通り（町田栄通りパンダ駐車場）
- ★10月11日(土)12日(日)
まちだ大道芸（パークアベニュー通り野村証券前）
- ★10月12日(日)
相模原国際交流フェスティバル（淵野辺：大野北公民館）
- ★11月1日(土) ボランティア連絡協議会バザー（ぼっぼ町田）
- ★11月3日(月) 夢広場（ぼっぼ町田）
- ★11月16日(日) まちカフェ（町田市役所）
- ★12月20日(土) 移動例会・懇親会（場所未定）

☆☆☆理事会ニュース☆☆☆ 西澤

5月度理事会；5月15日（木）総会に出席のためネパールから来日されたヌルブ ラマ理事を迎え開催された。定時総会（17日）の準備状況の確認及び当日の役割分担などを話し合いました。

7月度理事会；7月5日（土）に開催。日ネ協会総会参加報告及び町田国際交流ラウンジ-協力部会主催によるネパール・ミカの会活動紹介報告がありました。

7月17日（土）の移動例会、講演会・懇親会についてスケジュール及び当日の役割分担を決めました。更に今年度の事業計画の実施について主な事項の考え方・進め方の討議を致しました。その他今年度決まっているイベントについての説明と協力要請がされました。

また特定非営利活動推進法に基づくH25年度の法定書類を法務局に提出したこと、引き続き東京都に事業報告書を提出する予定との報告がありました。

☆☆☆編集後記☆☆☆ 加藤

温暖化の影響でしょうか？大型台風の被害や洪水の被害が世界各地で起きています。一方ではアメリカ西部で500年に一度と言われる干ばつで農作物も被害を受けています。こうした自然の脅威、さらにエボラ出血熱の拡散と惨事が続きます。国際紛争も各地で頻発、戦闘が激しさを増しています。人間の愚かさを何時になったら悔い改める事が出来るのでしょうか。

さて、我が会の教育支援も様々な問題と直面しています。建築資材の供給がままならない為に校舎建設が大幅に遅れています。図書支援の図書が行方不明です。今までに無いトラブルが気になります。それでもネパールの子供たちの為に知恵を絞り、一步一步支援を継続して行きましょう。



「国連・日本・ネパール」

～何が変わり、何が変わらないか～ に参加して

中野 千恵子

7月17日（木）16:30から橋本にありますソレイユさがみセミナールーム2において「ソレイユさがみ講座」が開かれました。講師は山下泰子先生で法学博士・文芸学院・大学名誉教授・国連 NGO 国際女性の地位協会会長・認定 NPO 法人日本ネパール女性教育協会理事長といろいろと肩書きを持った先生でした。著書も「女性差別撤廃条約の研究」「女性差別撤廃条約の展開」など数々の著書を書いておられます。

講演は先生の30年の歩みと女性差別撤廃の話が主でネパールはチャウパディ（生理時の隔離）やネパール山村に100人のおなご先生を育成している話等でした。以前、ラマさんより西ネパールではチャウパディの事を聞いたことはありましたが写真を見て判りました。まだまだ、知らないネパールがありそうです。2時間はあっという間に過ぎてしまいました。ミカの会